

転ばぬ先の杖 - ワクチン -

犬・猫に接種できるワクチンは現在、下に示したものがあります。

犬
ジステンパー、パルボ、伝染性肝炎、アデノ2型、パラインフルエンザ、レプトスピラ、狂犬病

猫
伝染性鼻気管炎、カリシ、パルボ、白血病

注：狂犬病は、日本では犬のみに接種していますが、猫にも感染します。

生後4ヶ月までのワクチン

動物が産まれると、胎盤を通して貰った免疫と、初乳で貰った免疫を持つことができます。ただし、何れも、母親がちゃんと免疫を持っている場合です。

母親から貰った免疫を移行抗体といいます。この移行抗体は、生後3ヶ月までに消失します。つまり、免疫力がなくなります。免疫力がなくなると動物は無防備で、簡単に伝染病に感染します。

ワクチンは伝染病に感染することを避けるために行います。

ワクチンがしっかりと効果を現して、免疫を獲得できるためには、移行抗体が消えている必要があります。移行抗体があると、免疫が付きません。

なぜ免疫がつかないのか

生ワクチンは病原性をなくして弱毒化させた病原体です。つまり、動物の体の中で生きて増えなければなりません。この時、移行抗体があるとワクチンウイルスが抗体のために増えることもできず、免疫が付きません。免疫は、病原体が体に入ってきたときにその病原体に対する抗体をつくることにより成立しますが、先に移行抗体があると、新たに抗体を作れないのです。

移行抗体があるかないか

移行抗体の存在を調べることはできます。しかし、実際には調べる事をしません。何故か？
移行抗体の検査には1つの病気について5千円から1万円かかります。もし、8種混合ワクチンであれば8種類調べねばなりません。また、検査結果が出るまでに、1週間程度かかります。金銭的な事以外に、時間がかかるために、数回接種することにより対処します。

もしも、検査しているあいだに移行抗体が消失していたために病気に成ってしまっ
ては、元も子もありません。

極論を言えば、生後4ヶ月まで待ってワクチンをすれば、1回で済むわけですが、この間は、無防備になります。この期間に伝染病に感染するケースが非常に多くあります。

4ヶ月以上になってしまっている犬は1回の接種で1年間の免疫を獲得できます。

猫3種混合ワクチンはいかなる年齢であっても2回接種しなければ免疫が獲得されません。

一番最初の見出しに書きましたが、ワクチンは転ばぬ先の杖。病気になったり、ケガをして費用がかかる事態になって飼主さん達は動物には保険がないと決まって言います。きまってこうゆう飼主さんはワクチン接種していません。国民健康保険のようなものはありませんが、傷害保険のようなものは存在します。月々3千円から5千円の掛金で数十万の手術まで保証されます。

ワクチンは限定した病気のための保険です。

現在使用されている動物のワクチンは永久免疫が成立しません。したがって、追加接種が必要です。免疫は1年で消失しますので1年毎に追加が必要になります。

ワクチンの副作用について

ワクチンは先にも述べたように、病原性をなくした病原体です。いくら病原性をなくしたといっても、病原体に代わりはありません。したがって、健康状態が悪いときに接種した場合には病気になる事が有り得ます。

副作用として、アレルギーが出る場合があります。異常の出方には幾つかあります。微熱が出る事があります。この場合、少し元気がなくなり、おとなしくなります。食欲がなくなる場合と翌日になっても元気がない場合は診察の必要があります。

次の場合は診察が必要です。局所アレルギーとして、注射した部分が腫れます。全身性アレルギーとしては、体のどこかが腫れます。よくあるのは顔です。これらの症状は注射後30分から2時間以内にあらわれます。

ワクチン割引について

当院ではきちんとワクチン接種を受けている飼主さんに割引をしています。ワクチン接種予定日から15日前後で接種のときに受けられます。

2回目 5%引き	5回目 11%引き	8回目 17%引き	11回目 27%引き
3回目 7%引き	6回目 13%引き	9回目 21%引き	12回目以上 30%引き
4回目 9%引き	7回目 15%引き	10回目 24%引き	

アニマルクリニックおかもと
札幌市手稲区星置2条4丁目7番38号
011-699-2129